



ご自宅での生活が困難な方や、介護施設では受け入れが難しい疾病を抱えている医療依存度の高い方が、最後まで穏やかに生活できるよう、臨床宗教師が在駐する共同住宅として、メディカルシェアハウス アミターバは2015年11月11日誕生いたしました。併設の訪問看護ステーション、訪問介護ステーションにより、日々の生活、医療処置や体調の急変時の対応が可能です。訪問介護ステーションスタッフのうち10人が、介護福祉士資格を所持しており、すべての常勤職員が略痰（かくたん）吸引研修を受講しております。夜間の見守りサービスとの併用で24時間サポートさせていただきます。

メディカルシェアハウス アミターバは、ご入居者自身の、これまでの人生の過程や考え方、信条を一つの“ものがたり”ととらえて、医療・介護を「する側・される側」ではなく、お互いに人とひととして心の奥深くからの語りを真剣に受け止めて、対話をし、それを深めるという関係性そのものを大切にしていきたいと考えています。

また、ご入居者とご家族の不安や悩み等、医療や介護の力だけでは解決できない心の痛みに対するスピリチュアルケアの実践者として臨床宗教師が注目されています。メディカルシェアハウス アミターバでは、臨床宗教師2名が常駐し、ご入居者とそのご家族はもちろんのこと、地域の方々との交流を通じて皆さまの心の声に耳を傾けます。

沼口 諭 理事長

沼口 諭 (ぬまぐち さとし)先生  
医療法人 徳養会 沼口医院 院長

講師プロフィール: 1988年岐阜大学医学部卒業。国立療養所岐阜病院内科、岐阜大学医学部附属病院などを経て、1994年岐阜大学大学院医学研究科博士課程修了。同年より現職。

1972年に得度(真宗大谷派 宗教法人真福山徳養寺 第17代僧侶)、2011年教師補任。

「医療がささえる命、宗教が寄り添ういのち」が自身の課題です。在宅型ホスピス、メディカルシェアハウス アミターバで、臨床宗教師を含めた多職種チームが協働して「いのちのケア」に取り組み、患者さんや家族に寄り添う医療を広めるため「いのちを支えるまちづくり」を目指して活動しています。現在、大垣市医師会会長、日本臨床宗教師会副会長、ビハーラ大垣代表。